



2024年度大阪府訪問看護実践研修事業

北河内ブロック 悠久訪問看護ステーション
村上寿美



目標

- ①多職種向けのACP研修を成功させ、地域での定着を促進する
- ②在宅を支える多職種と排泄ケアについて考えることが出来る
- ③ダブル改定やオンライン請求に混乱を招かぬよう相談支援を充実させる

実践内容 (1)研修事業

「在宅で遭遇する皮膚・排泄ケアのコツ」

10月12日(土曜日)

関西医科大学附属病院13階講堂

参加者 36名



「人生会議支援実践人材育成研修」

11月2日(土曜日)

関西医科大学附属病院13階講堂

参加者 37名



(2)訪問看護体験研修事業

①**看護業務** 4名(看護学校教員2名、訪問看護ステーションスタッフ2名)

目的：看護学生が訪問看護の実習・指導を行っていく上で、指導教員に現場経験が無く現在の訪問看護の実際について学びたい

精神訪問看護についての実際を訪問を通して学びたい

②**管理業務** 1名(経験の浅い訪問看護管理者)

目的：ステーション管理・運営(給与・物品管理・事務の活用方法)、連携方法、利用者情報の整理、スタッフのモチベーションアップ、研修について学びたい

(3)電話FAX相談Q & A事業

窓口時間：月～金曜日 9時から17時

相談担当者：村上寿美

広報・相談受付方法：

ステーション連絡会での告知

チラシを毎月の状況報告書と共にケアマネージャーへ、報告書・計画書と共に病院・医師に郵送

電話・FAX/メールにて受付け、当日～2日以内に返答

実績：46件

地域における協力体制について

協カステーション 8ステーション

協カナース 1名

目標の評価

①多職種向けのACP研修を成功させ、地域での定着を促進する。

→一部達成

- ・日程設定を見誤ったこと、また当日の悪天候で参加人数が激減
- ・研修を繰り返し受講したい、いい雰囲気での研修が出来たという感想

②在宅を支える多職種と排泄ケアについて考えることが出来る

→達成

- ・多職種の参加が叶った
- ・時間をかけて実習も行えたことで質の向上に繋がった

③ダブル改定やオンライン請求に混乱を招かぬよう相談支援を充実させる

→達成

- ・ご相談に返答することと合わせて、必要書籍などを紹介することもできた

教育ステーション事業全体の効果と次年度の課題について

- ・事業内容や効果についてもっとアナウンス出来れば、今後も大きな効果が期待できると考える
- ・また、短期間であったが自事業所が教育ステーションを担うことで大きく成長できたと感じることが出来た
- ・ただ、教育ステーションの仕事内容として、研修の準備や体験研修の橋渡し、報告書の作成など時間の拘束が大きく、小規模の事業所の管理者が本来の業務と並行して行うことは負担が大きいと感じた



ご清聴ありがとうございました